

SA 吹田 通信 第4号

2003年9月

発行 SA吹田 事務局 〒565-0821 吹田市山田東4-41-4-506

TEL&FAX 06-6876-1437

はなみずき会の活動

岩城 延重 (SA13期)

はなみずき会は、老人大学の吹田支部が立ち上がり直に地域活動グループとしてスタートいたしました。昨年に大阪府からも表彰を受けております。現在在籍者は24名です。人会して活動をはじめて8年になりますが、会員にはSA出身者も入っていますが、老人大学修了者の会となっています。上たる活動は、吹田市が行っているデイサービスの支援です。デイサービスの利用者は17～20名です。最高齢者は94歳でお元気です。概ね70歳代の方が多ようです。特技を持った方はおられませんが、利用者がアコーディオンの上手な方がおられて歌の作曲などもされます。毎週月曜日と木曜日午後1時～4時まで、総合福祉会館にて、デイサービスのヘルパー支援のボランティアをしています。私たち会員は、レクリエーション(歌、ゲーム、手芸、体操、散歩など)のお手伝いと、話相手になつたりしています。散歩は片山公園が多いですが買い物ツアーもありその時の外食が利用者にとっての楽しみでもあります。そんな難しいことをしているわけではありませんが、どちらかといえば、私たちが一日退休せずに、遊ばせていただいているようなときもあります。楽しく充実した日々を過ごさせていただいております。宜しければ、見学の上ご参加下さい。歓迎いたします。

円照寺・・・その歴史と文化について

奥谷 博 (SA15期)

はじめに 現在の山田の円照寺周辺も、資本主義社会経済がじわじわと浸透する影響は避け難く、多数のマンション群の出現、大田家屋敷も変化、太平洋戦争の被害が殆ど無かったこの地にも、古からの豊かな竹まいを保つ原風景も大きく変遷せざるを得ない動きが諸処に出て来ている。

位置関係 旧円照寺は、山田川の源流と云われ、聖徳太子の伝承を持つ蓮間ヶ池(現循環器病センターの南側付近から金蘭学園辺り)の地に、叡山を開いた最澄の天台宗の寺院として最澄の後を継いだ天台座主円仁(慈覚大師)が、第55代文徳天皇の勅願により853年の草創である。

建立の由来 何故この地であったのか。聖徳太子の伝承と云われるように色々なことが伝えられている。586年用明天皇の御代に、仏教信仰で熱心な信者の蘇我馬子一派と反対の物部守屋と中臣勝海の一派の争いが熾烈になってきた時で、天皇(用明)の御子で仏教研究家の聖徳太子(この時は蘇我皇子で14歳)が蘇我馬子と共に勝利するきっかけとなった「難波の北方山上(山田村蓮間ヶ池周辺の地を指す)に曇雲瑞光あるを見・・・」との伝承がある。6年後の33代推古天皇が聖徳太子(20歳)を立て、摂政として政治を代行させた。是により蘇我氏が勝ち、仏教熱が急速に高まっていった。以後、聖徳太子が求めたのは「心」だけではなく寺院の建立でもあり、後の四天王寺と

法隆寺の建立に繋がるのである。円仁（慈覚大師）が、聖徳太子の墓のある太子町の歡福寺参籠のおり、同じような夢でのお告げがあったとのことで、853年に聖地山田のこの地に円照寺を建立した。その後、事情により醍醐寺系に一時代代り、894年第59代宇多天皇の勅宣により、空海（弘法大師）の真言宗（高野山派）の道場になった。山田全体で七堂伽藍と百十余りの坊があったようだ。これらの施設は室町中期頃でも坊と七堂伽藍は保持していたようだ。

文化 円照寺とは直接関係ないが、この時期、空海も最澄も日本文字の発展に大変尽くされた記録があり、日本独自の文化を發展させることになった仮名の発明はこの時代である。字と云えば漢字であったが、これをシナ読み（音）と訓で読む日本独特の方法で使うようになり、その後、空海の作と云われる「いろは歌」（本当かどうかは不明だが）を経て、平仮名字開発へと移っていった。この過程で大変努力したのが、草創した円仁の下で修業した^{繁然}と云う大学者である。そして、その後の教えを受け^{明覚}へと継がれ、世界に誇る日本文化“平仮名”を發展させている。

円照寺と山田城 残念ながら室町後期（応仁の乱—1467年～1477年—で以後戦国時代とも称される）、赤松則祐により築かれたと伝えられる山田城は中自治会の墓地の処を頂点として、其処から山一小学校にかけての傾斜面を利用した山城で、西国街道と亀岡街道との狭間の間道筋にあり、戦国には有利な山城と云われていた。頂上に近い千原高校付近に武将の厩があったようだ（参照・東摂州城址図誌に記録は残っている）。しかし、堅固なこの城も室町の戦国末期、戦火に巻き込まれ、守護職細川家の攻撃で、城の滅亡と同時にさすがの円照寺の威容を誇った多数の坊や七堂伽藍も消滅したと伝えられている。

山田郷の仏像・絵画 細川の大攻撃以外さしたる攻撃も受けず、北に西国街道、南に神崎川の江口（風光明媚で遊興の場）へと繋がる亀岡街道に囲まれ、九十九と云われる程の山や谷を持っていたため侵入されにくく、多くの貴重な文化財等が残ったようだ。

新円照寺（現円照寺） 江戸時代に入り、1633年寛永十年、山田郷は京都所司代板倉周防守重宗の領地になり、1658年万治元年、覚祐が焼け残った仏像を安置して再建された。この普請から山田の盆踊り「権六踊り」が生まれたと伝えられている。

参考資料 物語日本史 平泉 澄著

公園に健康器具を

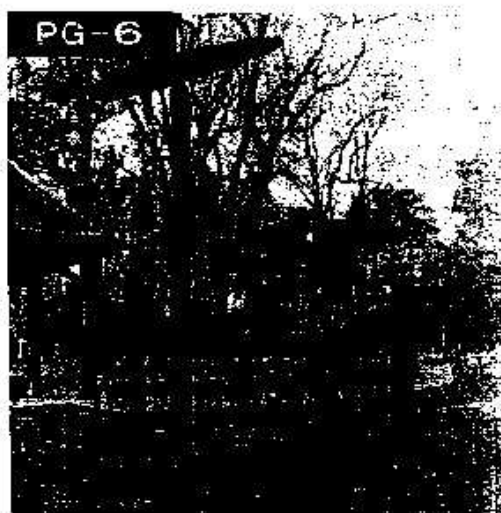
三好 桂子（SA13期）

『高齢者用健康器具の公園への設置についての要望』を吹田市長宛に提出しました。

5月30日にNHKは東京都荒川自然公園に健康器具13基を設置したことを放映しました。また、上海でSARS予防に運動が盛んであり、ここでも公園に健康器具が設置されていました。わが国では団塊の世代が私たちの仲間入りする10年後には、4人に一人が65歳以上の高齢者となります。21世紀をすべての高齢者が健康で心豊かに生活するためには、まず第一に健康づくり運動を展開することが必要です。高齢期の健康保持のためには、自分に合った運動を楽しく続ける習慣を身につけたいものです。

吹田市は1983年に『健康づくり都市宣言』をしました。今年は20周年記念に当たりますので、健康増進のためにさまざまなイベントが企画されています。しかし、公園に健康器具

が設置されているのは、ほんの数箇所です。子ども向けの遊具ばかりです。買い物に行くとき、散歩などのついでに気軽にできる健康器具の設置が急がれます。また、これが新しい公園のあり方であると認識しています。私たちは、多くの方の協力を得ながら取り組み、市側の回答を見た上で次の段階へ進めてゆきます。



階段と吊り橋で全身バランス運動



ぶら下がりで背と腰を伸ばす運動



足首とすねを強くする運動



坂道をらくに歩く運動

第3回あいほうぶまつり支援活動に参加して

新地 秀生 (SA15期)

去る9月6日(土)残暑厳しい午後の一時、障害者支援交流センターあいほうぶ吹田において第3回夏祭りが催されました。SA吹田班と15期ドリームネット班の有志14名による食品、厚生授産品の販売活動、またゲームコーナー、おもちゃ作りなどを分担しました。当日は小雨降るなか午後2時に集合して、当センター係員による役割分担の説明を受けた後会場設営を手伝い午後4時いよいよ開会宣言がされました。雨はすっかり上がり強い日がさしはじめていました。

最初にボランティア支援の太鼓が勇ましく鳴り響き、障害者とその家族を激励し開幕。各模擬店にもたくさんの方が並ぶほどの盛況振りでした。我々SAも各自の持ち場に散り、綿菓子、輪投げ、袋釣り、喫茶、障害者の手作りのクッキー、染物Tシャツ、ハンカチ、うちわの販売や、おもちゃコーナーでは子供たちと共同で作業し出来具合によって一斉一褒しながら喜びを共有しました。広場では観客も入っての盆踊りや、古江台中学OBによるソーラン節が若いエネルギーを発散してダイナミックに舞い、多くの方々の大喝采を受け障害者も踊りの輪に入り若者同士の交流が促進されました。我々SAも飲み物も摂る時間がないほど忙しくそれぞれの持ち場で参加者との交流を深めることができ、充実した時間を過ごし7時過ぎ無事終了しました。事故もなく興奮と満足で土産に解散しました。感謝!!



SA吹田活動予定(10月~11月)

- 10月19日(日) 歌体操「大阪国際フェスティバル」・・・大阪市立中央体育会館
- 10月20日(月) ~31日(金)・・・千里高校おもちゃ作りと交流会・全8回
- 10月25日(土) 北千里公民館祭り
- 11月19日(水) 大阪市民フェスティバル・・・大阪城公園
- 11月23日(日) 歌体操「吹田市民健康づくりフェスティバル」・・・北千里体育館
- 11月29日(土) 第3回ミニ文化交流イベント・好日荘(千里老人文化センター)

編集後記

今年の夏は冷夏に始まりましたが、8月中旬からは厳しい残暑が9月に入っても続きました。今月号は公園に高齢者用の健康器具の設置を要望する記事や地域の歴史紹介記事など貴重な原稿をいただきました。これからも皆様の投稿をお待ちしております。